

ご挨拶

審査基準は「今年いちばん、クリエイティビティあふれる仕事をした人は誰か?」です。

博報堂藤井久と申します。今回、東急エージェンシーの能登健裕さんの後任で、JAAAクリエイティブ委員会の委員長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

JAAAのクリエイティブ委員会は、毎年、「クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞」を選出している委員会です。昨年度より、クリエイティブ委員会のもとに、「クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞審査会」を新たに組成し、ダイバーシティにも配慮した枠組みで、厳正な審査をおこなっています。

「クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞」は、広告業界を代表するクリエイティブワークをした個人に贈られる賞です。今、広告業界がどんどん進化している、その進化の象徴が「クリエイター・オブ・ザ・イヤー」と言ってもいいと思います。そういった意味でも、「クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞」は、もはや「クリエイター」だけの賞ではなくなりました。広告業界全体から、様々な職種の方々がエントリーされる幅広い賞になっています。

具体的なアウトプットとしては、CM、グラフィックなどの広告物にとどまらず、デジタル施策、イベント、PR、映画、テレビ番組、商品開発、デザイン、AI、テクノロジーなど、様々な分野の業務が応募されてきています。

ただ、審査基準はシンプルです。「今年いちばん、クリエイティビティあふれる仕事をした人は誰か?」

こんなやり方で、得意先の売り上げアップに貢献した！ 今年、社会をいちばん驚かせたのは自分だ！ 地味だけど、こんな新しいことをしていることを知って欲しい！ 広告会社で、こんなことしている人、他にいないだろう?! どんな応募理由でも構いません。スケールも問いません。そこにクリエイティビティがあるかどうか、です。

「クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞」は、次の広告業界を背負う「新しい人」を見つけたいと思います。「自分なんてまだまだ…」なんて思う必要はありません。「自分を見つけてくれ」「次は自分だ!」という気概で、あなたのクリエイティブな業務をエントリーしてきてください。たくさんの応募、お待ちしております。

一般社団法人 日本広告業協会
クリエイティブ委員会 委員長
藤井 久

